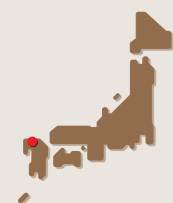


— 確かな技術と品質で 信頼と笑顔を送り続ける —
九州電技開発 株式会社



所在地：〒810-0005 福岡県福岡市中央区清川2丁目13番6号
 TEL：092-533-5177
 FAX：092-533-5181
 URL：http://www.dengi.co.jp/
 設立年：昭和49年3月
 代表者：代表取締役社長 今村 義人
 従業員：73名



社屋



地中送電線洞道の調査設計



地中線管路推進設計



50万V送電線



災害対策 地盤補強工の設計



X線による電線劣化判定（関西電力との共同）



無電柱化の設計（豆田町）



CIGREワーキンググループ会議後の発電所の見学（アイルランド）



鋼材基礎劣化診断



みやま市バイオマスセンター 導入支援（生ごみ等バイオガスセンター発電施設）



社内技術発表会



風力発電連系線の設計



自社開発の小型ボーリング機（軽量可搬型、山岳・狭険地）

経営・事業領域

当社は昭和49年3月に九州電気建設工事株式会社（現株式会社九建）の調査測量部門から独立、送電設備工事の建設に伴う調査・測量・設計を主としたコンサルタント会社として、福岡市内に設立されました。電力需要が高まる時代とともに、地中線や配電線、設備保全システム開発など業務の拡充を行い、電力輸送設備の総合コンサルタントとして発展してまいりました。

昨今では、社会資本整備やエネルギー供給の多様化のために、公共関連の都市インフラ事業や再生可能エネルギー利用事業などの分野にも業務の裾野を広げ、九州一円をはじめ全国のお客さまに安定した「電力」と「笑顔」を送り届けられるよう、技術力の向上・発展に日々努めております。

主な技術と実績

● **電力事業**

戦後、我が国の経済は急速に成長し電力需要も増大してきました。九州においても需要増に伴う電源開発が各地で行われ、大容量送電線の建設が次々と計画され

ました。九州の北部と南部を結ぶ電力輸送の大動脈となった50万V送電線建設計画をはじめ、当社はその建設に係る諸調査・設計業務に携わり、九州全域の送電線基幹系統づくりに取り組んでまいりました。

九州内の送電線は建設から約40年経過しており、今後は電線ほか設備の更新や新設が計画中です。

近年では、基幹送電系統の2ルート化による電力供給信頼度の更なる向上策として、九州の南北を結ぶ第二の50万V送電線の建設が計画され、今回も諸調査・設計業務に携わりました。この送電線は全国でも最大規模の建設工事で、2022年の完成を目標に工事が現在着々と進んでいます。

平成に入ると、都市圏のニーズにより地中送電幹線の諸調査・設計業務にも携わるようになりました。地中送電ケーブルの更新計画として、以前から使用しているOFケーブルからCVケーブルへの切替があり、その設計も携わっています。

九州域内の産業・生活を支える電力を安全に安定的に供給できるように、電力輸送設備の経年劣化進行状況の点検にも従事しています。電線内部の腐食へのX

線検査や放電測定、鋼管鉄塔部材内部腐食点検及び鋼材基礎劣化診断等、電力輸送設備の保全・管理の技術高度化にも努めています。

● **公共事業**

現在、当社では電力土木、土質・基礎、地質、電気・電子、道路、廃棄物の6部門を登録しており、電力事業で培った技術を基に、主に国土交通省九州地方整備局管内の事務所や九州の各県、国立大学法人、及び周辺の市町村から受注しています。

【**道路部門**】

道路関連では、国策である無電柱化推進事業に係る電線共同溝の設計や、電線類地中化・無電柱化及び道路設計等を受注しています。

大分県日田市では、市の中心部にある豆田町の電線類地中化・無電柱化に伴う設計を受注しました。伝統的な古い建物や街並みが残っている「日本遺産」のエリア豆田町は、電柱を無くしたことで往時の風景が甦り、観光地としてにぎわっています。江戸時代に幕府直轄の城下町として栄えた「天領日田-豆田町」で、レトロな風景と街歩きを楽しんでみませんか。

【**廃棄物部門**】

地球温暖化に関心が高まる中、当社も再生可能エネルギーの事業に参画しております。

電力事業では風力・太陽光・地熱発電の連系送電線路の調査・測量・設計もしていますが、廃棄物として処理される生ごみやし尿等をエネルギー資源として活用できないか調査・検討を行い、バイオマスの発電・熱利用の事業化計画作成のお手伝いもさせていただいています。

【**技術力の高度化**】

電力輸送設備は、恒久的設備要素を持つため「長寿命化」が課題であり、関連企業との共同研究を行ったり、CIGRE（国際大電力システム会議）のパリ大会やワーキング等に参加したりしています。また、社内においては設備管理のシステム開発、地質調査に使用するボーリング機の小型化及びドローンによる調査資材の運搬開発など、新たな技術開発に挑戦しており、社員のアイデアと知識を活用し技術力の高度化に邁進しています。

（文：取締役 渡辺正之）